

〔嫁入記〕一くるだなとは、ちがへだなの事なり。○中みづしとは此たなのしたを、四方ふさぎて、ま
ひ戸をして、からじやうおろすやうにえたるをいふなり、すこしひする物など入べき也。

〔貞丈雜記調度〕一御厨子棚と云は、本は御厨子所にて食物を納め置く棚也。御厨子所は食物を黒

棚は厨棚也。屋ナリヤダナチ略シテクログダナト云也、クリヤト通音也、クリヤト云モ即御厨子所ノ

事ナ、右二の棚本は右の如くなる物なれ共物を載ておくに便利なる物故、其形を移して花麗に

作て貴人の傍に置也、御厨子棚も黒棚も、古は常に座敷に置て、手なる、道具どもを置たる棚也、

今は武家にては婚禮の時ならでは、用ざる物と思ふはあやまり也、此棚のかざり様とて定る法

もなき事也、婚禮の時は、その節祝儀に附て、しげく用る物どもをつかふ便よき様に置く也、其置

物ども心つかざれば、よろしからぬ故、舊記に記置たるが法式の如く成し也。

〔厨事類記〕威儀御膳

御厨子二脚三階高四尺、長五尺、弘一尺五寸、或高三尺九寸、或四尺九寸云々、

或蒔繪、或黒漆、或紫檀地螺鈿、后宮御産之時用榎木螺鈿、可依時儀、但近代塗胡粉雲母畫松鶴、

〔調度口傳〕一御厨子棚之事

此名目は大内の御厨所の棚を表し作りたる故の名なり、大サ長サ三尺三寸ニ總高サ二尺八寸、

廣サ一尺三寸梨子地蒔繪紋ちらし、螺鈿を最上とし、其頃梨子地紋ちらし、黒塗蒔繪紋ちらし、黒

塗紋ちらし、くろ塗鑄掛地等、其主の分限、又好に依べし、又沈の御厨子は沈木にて作る、又沈木を

略して唐桑にて作り、又唐桑を略し、雜木に色を付るも有べし、又面押とて、上を錦にて張上、さし

糸とて糸にてとち、其餘りを總角に結びたるも有、此事別にくはしく記す、是は公家の事也、武家

方にて先はなき事なるべし、棚は二ツあり、厨子二ツ扉の内、上に大黒左ゑびす、右の蒔繪下には

左獅子右狛犬、筆返し有、蝶あし也。